

厚生労働省行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）

分担研究報告書

専門職連携教育先進国へのヒアリング調査

研究代表者 酒井 郁子 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター  
センター長

研究協力者 朝比奈真由美 千葉大学医学部附属病院  
Daniel Salcedo 千葉大学医学部附属病院

研究要旨

英国・ドイツ・デンマークにおける専門職連携教育の取組に関するヒアリングおよび視察を実施し、日本における看護師等学校養成所における IPE 実装を促進するための知見を得る目的で本研究を実施した。結果 1.関わる人すべてを巻き込み IPE のプランニングを行うこと、2.IPE を支える理論的根拠をもとに評価できるようにすること、3.カウンターパート校の獲得と関係構築、4.初等・中等教育との連携も視野に入れた連動性のある教育を検討すること、の 4 点の示唆を得た。

A. 研究目的

英国・ドイツ・デンマークにおける専門職連携教育の取組に関するヒアリングおよび視察を実施し、日本における看護師等学校養成所における IPE 実装を促進するための知見を得る。

B. 研究方法

1. 期間

2017 年 8 月 28 日～9 月 8 日

2. 訪問先および視察内容

8 月 28 日から 8 月 31 日まで英国レスター大学およびレスター大学で行われている IPE の実習サイト Lakeside Corby 病院を訪問した。レスター大学は英国におきて先進的 IPE を展開している大学であり、千葉大学と IPE との交流は 10 年にわたる。あらたな診療参加

型 IPE プログラムおよびサービスラーニング IPE に関する意見交換とアドバイスを受けた。

9 月 1 日から 3 日は、英国ロンドンのセントジョージ大学および JSPS ロンドン連絡研究センターを訪問した。セントジョージ大学はキングストン大学看護学部と連携し IPE を行っている。IPE 大学間連携に関する意見交換を行った。また JSPS ロンドン連絡研究センターでは英国と日本の研究教育交流の可能性に関する情報収集を行った。

9 月 4 日にはドイツデュッセルドルフ大学を訪問し、9 月 5 日はドイツベルリンにあるシャリテ医科大学を訪問した。デュッセルドルフ大学には看護学部はないが、理学療法学科と医学部の教育 IPE が行われていた。シャリテ医科大学は看護学部が創設された直後

であり、理学療法学科、医学科、看護学科との IPE に取り組んでいる。今後の交流可能性を確認した。

9月6日にはオーフス大学(デンマーク)を訪問した。デンマークは古くから格差のない社会の実現に向け初等教育から IPE を取り入れており、そのため専門基礎教育での IPE の必要性はないが、継続教育での IPE シミュレーション教育が実施されていた。

## C. 結果

### 1. 英国レスター大学における IPE

英国における IPE の歴史は古いが、現在の発展の基盤となったのは、1997年の労働党政権への変換からである[1]。このとき連携と協働へのコミットメントが強化された。その後発展を続け、健康専門職の学部プログラムにおける「共通教育」として実装されてきた。当初は職種間の理解に主眼を置いたプログラムが主流であったが、現在は、ケアの質向上を意図した IPE となりより実践的に展開されている。保健社会福祉系の 10 大学のうち 6 大学では IPE が行われている。

レスター大学は、英国における 1990 年代からの IPE の発展をリードし続けている大学である。千葉大学亥鼻 IPE の準備として 2005 年にレスター大学を訪問して以来、常に千葉大学とレスター大学は IPE の発展に力を合わせて取り組んできた歴史があり、亥鼻 IPE のモデルとなった、レスター大学 Strund Model IPE[2]は現在も進化を続けている。レスター大学は医学部を有し、デモントフォート大学の看護学部、薬学部、言語聴覚学部、ノーサンプトン大学看護学部、作業療法学部、理学療法学部、栄養学部等で、この NHS トラストにおける大学コンソーシアムを組んでお

り、IPE を連携して行なっている。

現在のレスター大学 IPE は診療参加型 IPE および地域におけるサービ斯拉ーニング IPE を主軸としたものに発展している。

いくつかの興味深い取り組みを述べる。

まず臨床家と大学が共同イニシアチブで展開する急性期病院における診療参加型 IPE について説明する。

今回視察した Lakeside Corby 病院は、4人のスペシャリスト看護師(糖尿病、心不全)、4人のナースプラクティショナー、10人のプラクティスナース、3人の臨床薬剤師、21人の医師、4人の General Practitioner(以下 GP)が勤務している。週に約 3000 人の患者が GP の診療を受け、週に約 2500 人が看護師とコンタクトする。また日帰り救急には 200 人前後の患者が来て小さな手術や検査などを行う。また禁煙指導や理学療法なども行われる地域の中核病院である。教育病院として長い歴史を持ち、医学教育、看護教育に貢献してきた。

近年、IPE マネージャーを導入し、看護学部、薬学部、医学部からのそれぞれの実習生を受け入れている。そして、学生とともに実際の患者ケア計画とポリファーマシーに関する専門職連携実践の改善を行っている。また電子カルテを患者と共有することにより、IPW に患者が参画できるようになっている。

この病院で行われている診療参加型 IPE は、この病院に実習に来るレスター大学医学部、デモントフォート大学看護学部薬学部の学生を同じ病棟で受け入れ、実際の患者をこれらの学部生が受け持ち、臨床家とともにケアプランニングとポリファーマシーに関しての介入計画を立案するものである。診療参加型 IPE は Practice based Interprofessional IPE[3]

とも呼ばれ、患者中心であること、学生が経験、内省、問題解決という理論的学習サイクルを完結できるようにデザインされている。そして、病院及び地域の専門職チームメンバーに組み込まれともに働き学ぶことを理念とした実習である。そのための準備として、実習に行く前のグループワークにおいて臨床で必要とされる知識をともに学んでから実習にでる。この実習の到達目標は、専門職と話しあう中で学生が発見したポリファーマシーに関する問題解決の方向性をプレゼンテーションすることであり学生が発見したクリニカルエラーは専門職チームにフィードバックされる[4]。

病棟での IP 実習をマネジメントするのは、IPE マネージャーである。また病棟での IPE 実習を受け入れる臨床指導看護師は、他病院での同じような取り組みをしている臨床指導者との勉強会及び情報交換会を定期的実施し、診療参加型 IPE の実習指導の質を向上させている。大学の教員は病院実習への動向はしないが、定期的に大学と臨床の実習指導に関する連絡会が実施されている。この連絡会は勤務時間内に実施されている。

このような仕組みの診療参加型 IPE 実施のシステムはサウサンプトン大学がある地域トラストでも行われている。

学生は、低学年のうちにはクラスルーム IPE、と大学周辺の地域での住民の健康問題に取り組む見学型 IPE などを経て、最終的にはこのような診療参加型 IPE で実際的なチーム医療実習を行う経年蓄積型 IPE として効果を上げている。学生の学習効果のみならず、このような臨床と大学が共同イニシアチブを取り実施する IPE を行うようになってから、臨床での IPW の改善がみられている。

次に、レスター市とレスター大学が共同で活動しているホームレス支援における IPE を説明する。これはサービスラーニングの機会また近年地域のホームレスへのシェルターでの食事サービスやカウンセリングなどの拠点での、地域サービスラーニング IPE (Leicester Initiative Good Health Team LIGHTprogram) をスタートさせた。

このプログラムは、地域のホームレス支援を行う拠点のスタッフと学生のパートナーシップにより、アウトリーチ型の健康支援の機会を IPE として提供するものであり、正規プログラムではなく、チャリティとボランティアで実施されている[5]。

ボランティアとして活動する前に、ホームレスネス、レスター市のホームレスの実態、一般的な健康問題の診断と対応、倫理的法的な原則、学生と職員とのパートナーシップ、心理的対応スキルなどを学び、ボランティアとして、参加し食事配給サービスを行う。

このプロジェクトの目的は、短期的にはレスター市のホームレスの健康改善と、ホームレスへのサービスのアクセスの改善を目指すものであり、長期的には、医療におけるスティグマの低減とホームレスへの医療者の意識を高めることを目指している。

実際のボランティアによるサービスラーニングは、1 週間であり、食事配給サービスと健康チェック、ヘルスプロモーションセッションから構成されている。

このプログラムの学習成果は、学習者のステレオタイプを変更すること、健康と法的問題と社会格差の連環を深く理解すること、自分自身の管理とともに、プロジェクトの管理にコミットすること、慈善団体の管理を学ぶことである。

## 2. 英国セントジョージ大学における大学間 IPE コンソーシアムの実践

UK や EU では、医学部のある大学と看護学部のある大学は別であることが多く、IPE は地域の医療系学部を有する大学で連携して実施されている。セントジョージ大学は医学部があり、カウンターパートとして兄弟校のキングストン大学とのコンソーシアムを組んで IPE を実施している。キングストン大学は、芸術、人文、工学などとともに関係系、医療系、福祉系の学部がある複合大学である。この二つの大学の教育病院が、セントジョージ病院という NHS 総合病院となっている。

カリキュラムへの IPE の統合には長い歴史があり、双方の担当者が話し合い、決定している。1990 年代後半から積極的に IPE を実施し、共通の IPE 教材の開発を行ってきたが、現在、セントジョージ大学は研究センターの医学部に役割がシフトしたことから、キングストン大学がイニシアチブをとって進めている。

## 3. ドイツにおける IPE

ドイツでは、1999 年から健康専門職の教育の高度化が推進され、それまで強くあった医師と他の健康専門職の階層性を解消しようとし、IPE の導入の可能性が高まっている。

看護学領域では教育の高度化がスタートしたばかりであり、医学部と看護学部の IPE はそれほど多く行われていない。デュッセルドルフ大学では理学療法学部と医学部との IPE が実施されていたが、シャリテ医科大学では看護学部が開設予定であり、これから IPE を組み込む予定である。

一方、看護専門学校との連携によりシミュレーション教育は 10 年以上展開されている。

## 4. デンマークにおける医療系 IPE の実際

デンマークでは初等教育から格差や差別

をなくすようにデザインされているため、小学校からヒエラルキーのないコミュニケーション環境が用意されている。

このような初等教育に基づく、専門家間のコラボレーションは、社会的、身体的またはその他の障害を持つ人々の排除を防止し、サービス提供の効率を向上させるために 1960 年から法律に義務づけられている。学際的なコラボレーションとチームワークは、医療、看護、その他の保健医療職業、ソーシャルワーク教育において必修となっており、例えば、看護基礎教育では、ケアの質と継続性を確保し、学際的な協力を促進する際に、医療従事者のさまざまな貢献をカバーする学際的なチームワークのモジュールが含まれている。

オーフス大学とその近隣の大学では医学生と看護学部生の IPE がシミュレーション教育を中心として体系的に実施されており、そのためのシミュレーションセンターを有している。

## D. 考察

日本の看護師等学校養成所における IPE の実装に向けた示唆として以下を得た。

### 1. 関わる人すべてを巻き込み IPE のプランニングを行う

レスター大学における診療参加型 IPE、サービスラーニング IPE では、IPE 担当教員だけでなく、病院のスタッフ、ボランティアセンターのスタッフを巻き込んで IPE のプランニングが行われていた。またオーフス大学のシミュレーションセンターにおいては医学部、看護学部の教員が IPE 担当教員とともにプランニングしていた。加えてサービス利用者と学生の参加を促進する仕組みが作られつつあった。IPE は教育機関と実践の場が共

同でイニシアチブをとり、進めていく方法に変化しつつあり、今後は Practice Based IPE の実装が進むと考える。

そのためには Practice Based IPE を支える専門職が生涯学習として大学教員とともに IP 学習の文脈をともにはぐくむことが必要となる。

## 2. IPE を支える理論的根拠をもとに評価できるようにする

成人学習理論のエビデンスに基づいた IPE とは経験学習、リフレクション、問題解決のプロセスを踏む授業を実施し、学習成果に照らして修正すること、安全な環境で成功体験を蓄積して、簡単な課題から複雑な課題に進化させていくことである。すなわち、成人学習理論からいえば、経年蓄積型の学習者主導のカリキュラムが望ましい。

今回視察した大学の IPE の説明ではすべて理論的な根拠が説明されており、学生とも共有していた。

IPE を実施する際には理論的根拠にもとづいた一貫したプログラムを作成し、できるだけコンピテンシーベースのカリキュラムにすることが重要である。個の獲得すべきコンピテンシーの明確化は学生の動機付けに直結する。

また英国の IPE の発展の経緯から、1990 年代に IPE の目的とすることは、「互いの職種理解」であったが、現在の IPE は、ケアの質向上を強く志向し、そのために個人の専門職連携コンピテンシーの獲得を目指すものに変化していることがわかる。すなわち、成果を設定したアウトカムベースの学習者中心の教育に変革してくことが IPE の発展とつながっていると考える。

## 3. カウンターパート校の獲得と関係構築

歴史的に関係が深く、距離の近いカウンターパート校を獲得することが基礎教育での IPE の第一歩となる。英国では地域トラスト単位でのコンソーシアムが積極的に構築されている。日本では、市町、県単位でのカウンターパート校の探索と獲得が現実的と考える。

## 4. 初等・中等教育との連携

デンマークのオーフス大学の事例から、初等教育、中等教育と専門基礎教育で一貫した格差の解消やコミュニケーションの充実をはかる教育を展開することで専門基礎教育での IPE がより効果的効率的に焦点を明確にして展開できることが示唆される。

## E. 結論

英国・ドイツ・デンマークにおける専門職連携教育の取組に関するヒアリングおよび視察を実施し、日本における看護師等学校養成所における IPE 実装を促進するための知見を得る目的で本研究を実施した。結果 1. 関わる人すべてを巻き込み IPE のプランニングを行うこと、2. IPE を支える理論的根拠をもとに評価できるようにすること、3. カウンターパート校の獲得と関係構築、4. 初等・中等教育との連携も視野に入れた運動性のある教育を検討すること、の 4 点の示唆を得た。

## 文献

1. 大嶋, 伸., 明. 高屋敷, and 博. 藤井, *英国における保健医療福祉専門職連携教育(IPE)の発展と現状*. リハビリテーション連携科学, 2007. 8(1): p. 16-26.
2. Anderson, E.S. and A. Lennox, *The Leicester Model of Interprofessional education: developing, delivering and*

- learning from student voices for 10 years.*  
Journal Of Interprofessional Care, 2009.  
**23**(6): p. 557-573.
3. Brewer, M.L. and H. Barr,  
*Interprofessional Education and Practice  
Guide No. 8: Team-based interprofessional  
practice placements.* Journal Of  
Interprofessional Care, 2016. **30**(6): p.  
747-753.
  4. Anderson, E. and N. Lakhani,  
*Interprofessional learning on  
polypharmacy.* The Clinical Teacher, 2016.  
**13**(4): p. 291-297.
  5. Goodier, R., S. Uppal, and H. Ashcroft,  
*Making international links to further  
interprofessional learning: a student-led  
initiative for the homeless population.*  
Journal Of Interprofessional Care, 2015.  
**29**(3): p. 265-267.